



のびのび若っ子

子どもたちの体力は

副校長 井関 眞澄

5月8日、新型コロナウイルス感染症が5類に移行しました。8日の朝は雨。マスクをして、傘をさしながら昇降口へ向かう子どもたちの登校風景は移行前と変わりはなく、皆元気に挨拶をして、教室に上がっていききました。

コロナの影響を受けた約3年の間。運動や遊びの制限によって、運動能力や体力が落ちることを大変心配していましたが、若小の子どもたちの令和4年度の体力テストの結果は、全学年とも市の平均の体力を上回っていました。傾向としては、柔軟性や筋力を必要とする種目（長座体前屈・上体おこし）は、比較的良い結果で、瞬発力（立ち幅跳び）は、もう一歩というところでした。今年度は、5月16日・17日にテストを行い、1年生には6年生が、2年生には5年生が補助につき、8種類の種目を行いました。高学年の優しい励ましやアドバイスが低学年の記録ののびにつながっているだろうなと思う場面がたくさん見られた2日間の測定でした。

若小では、休み時間を利用して体力づくりを実践しています。運動委員会が企画するキッズスポーツでは、全校が運動に親しみながらチャレンジできるように、話し合いを通して計画しています。本年度は、高学年対象にタグラグビー（希望者）も行う予定です。友だちや異学年と一緒に取り組むことで、運動する楽しさやできるようになった喜び、達成感をたくさん味わってほしいと思います。体力の向上は、脳を活性化し、学習効果を高めたり社会的な不適応や問題行動を抑制したりする効果もあると言われています。小学生のこの時期に、体を活発に動かして体力をつけ、これからの生活を豊かに充実した毎日にしてほしいと思います。

休み時間の校庭で、全身を使ってボールを投げたり、手足のバランスをとってジャングルジムを上ったり、木の株や石段をうまくよけながらお月見山を駆けまわったりしている子どもたちを見ていると、たくさん身体を動かして、運動する気持ちよさを感じ、身心共に強い子どもに育ててほしいと願ってやみません。子どもたちの体力向上と、健やかな心と体を育むために、ご家庭や地域の皆様のご協力をこれからもどうぞよろしくお願い致します。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』